

**院内  
採訪**

継続的かつ効果的にサポートをお手伝い  
**『地域医療連携室』のご案内**

当院では、平成26年より地域医療連携室を設置し、患者様の病状に合わせた対応ができるよう他医療機関と連携を図っています。

地域医療連携室とは、地域の医療機関・保健・福祉の各機関との連携を深め、患者様とその家族を地域全体で継続的かつ効果的にサポートできるよう構造化を行なう部署です。

主な対応内容としては退院後の生活について不安がある場合のご相談や福祉サービスのご利用方法、また他院との連絡調整などを行なわせていただいております。

患者様が安心して受診され、満足していただける窓口として、なお一層努力をして参りたいと思いますのでよろしくお願ひいたします。

<受付>月曜日～金曜日 8:30～17:15

ご案内場所：外来受付1番  
ご相談内容を伺います。遠慮なく声をおかけ下さい。

地域医療連携室長 山本 晃史

この機会をお見逃し無く!  
**看護の日  
イベントの  
ご案内**

日時 2019年5月9日(木)  
<10:00～12:00>

場所 イトーヨーカドー帯広店  
1F フードコート前

内容 健康相談会

血圧測定、血管年齢測定、骨密度測定、栄養相談、お薬についての相談などを行ないます。骨密度測定は裸足で測定しますので、ストッキングやタイツの着用は避けください。

参加無料

こじるみ

2019  
Vol.9

平成31年4月18日発行  
独立行政法人国立病院機構帯広病院  
広報誌

編集発行／広報委員会  
発行責任者／朝井 裕



Title／「吹き抜ける春の風」 Place／幕別町 Photo／織田 浩明

**重症心身障がい児者病棟  
行事  
『還暦を祝う会』**

1月9日に重症心身障がい児者病棟で「還暦を祝う会」が行われ、今年は3名の方の還暦をお祝いしました。式典では、医師はじめ病院スタッフからの紹介やお祝いの言葉、記念品等が贈られました。式の終わりには音更高校管弦楽部の皆さんにお祝いの演奏を披露していただき、会を盛り上げ楽しい式典となりました。



**エッセイ Me!!**

薬剤科 横濱 康平

「一期一会」

みなさんは「春」と聞いて何を想像しますか？花々が咲き乱れる風景、小鳥のさえずり、新生活に向けての準備など、たくさん思い浮かぶと思います。私の場合は出会いと別れですかね。卒業式や転勤、入学式や入社式によって、自分を取り巻く環境が大きく変わってしまうため、不安を感じることがあるかもしれません。

私は、人と関わりをもつことで自分の人生が豊かになると思っています。様々な人と出会い、接することで自分にない価値観や考え方を知り、学び、その経験を人生の糧として蓄えることができます。

人の笑顔が大切にし、日々周りの人たちへの感謝の気持ちを忘れず生活していくならなど私は思います。



4月1日より  
着任致しました。

新任の医師をどうぞ宜  
しくお願い致します。



心臓血管外科医師  
伊藤 直先生



心臓血管外科医師  
柴垣 圭佑先生



精神科医師  
澤田 浩美先生



それが！ココミちゃん  
ご好評頂いている、4コママンガ「それが！こ  
こみちゃん」は、作者の  
都合のためしばらく休  
載致します。



循環器内科医長 青木 真弓

た、その背景にはいわゆる生活習慣病(高血圧、脂質異常症、糖尿病など)が潜んでいることも少なからずあり、合わせてこれら疾患の治療にもあたっています。心不全の治療・進行予防においては食事、運動(リハビリ)などの生活习惯の管理も不可欠であり、栄養士、理学療法士など多職種が連携したチーム医療を実践しています。

心不全の引き金となりうる生活習慣病は自覚症状としては表れにくいため、検診等で早期発見できるように、また生活习惯にならないように日頃から健康に留意していただければと思います。

## 当院循環器内科よりごあいさつ

心不全という言葉を耳にされたことがあると思います。心不全は、心筋症や弁膜症、冠動脈疾患、不整脈など、さまざまな要因によって引き起こされる「なんらかの心臓機能障害」の結果、呼吸困難や浮腫などが出現し、運動耐用能が低下する状態です。厚生労働省から示されているデータでは、心不全患者の約70%が75歳以上の高齢者で、高齢化社会に伴って今後その患者数の増加が予測されています。また心不全の臨床経過のイメージが示されていますが、その特徴(怖いところ)は心不全増悪による入退院を繰り返しながら、身体機能が悪化する悪循環にあると思います。

心不全を発症しないように、発症後には増悪させないように、当科では基礎心疾患に対して適切な薬物治療やカテーテル治療などを行っています。疾患によっては当院心臓血管外科と連携して外科的治療を選択することがあります。また、その背景にはいわゆる生活習慣病(高血圧、脂質異常症、糖尿病など)が潜んでいることも少なからずあり、合わせてこれら疾患の治療にもあたっています。心不全の治療・進行予防においては食事、運動(リハビリ)などの生活习惯の管理も不可欠であり、栄養士、理学療法士など多職種が連携したチーム医療を実践しています。

心不全の引き金となりうる生活習慣病は自覚症状としては表れにくいため、検診等で早期発見できるよう

に、また生活习惯にならないように日頃から健康に留意していただければと思います。



## こころみ Q&A

### 狭心症ってこんな病気です。

#### Q1. どのような病気ですか?

A1. 心臓に栄養をおく冠動脈が動脈硬化などにより狭くなり、正常に働くために必要な血液が、十分に供給されなくなることで起こります。血管が冠動脈が完全に詰まってしまうと、心筋梗塞となってしまいます。

#### Q2. 症状はどのようなものがありますか?

A2. 主に胸の中央からみぞおちにかけて痛みが現れます。胸の圧迫感・しめつけ感のほか、のどの奥をはじめ、胸の広い範囲で痛みを感じることもあります。また、放散痛といって、左肩や左腕、奥歯などに痛みを感じることもあります。持続時間は数十秒～数分程度であることがほとんどです。しかし、心筋梗塞になると胸の痛みがおさまらず、長い時間続くことがあります。

#### Q3. どのような治療がありますか?

A3. 当院では、主な治療すべてに対応できます。



気になる症状がある場合は、早めに受診しましょう

## AEDのおはなし

麻酔科だより <麻酔科医師 多田 雅博>



心停止には除細動(電気ショック)の適応となる心室細動という致死的不整脈があります。これは心臓がけいれんのような細かく震えた状態で、血液のポンプとしての機能を十分に果たせない状態です。一方心停止には心室細動以外の状態で除細動が禁忌のものがあり、除細動の要否の判断が必要となります。

AEDを用いることで自動的に心臓の状態を解析・判断し、必要な場合に自動で充電し除細動することができます。そして心臓を正しいリズムに戻すことができます。除細動が必要な心停止発生から除細動施行までをいかに短くできるかが回復のカギとなっています。

### 自動体外式除細動器 AED使い方

#### 使用手順

- 1 AED到着後すぐに電源を入れます。容器を開けた時点では電源が入る機種と、電源ボタンを押すことで電源が入る機種があります。
- 2 傷病者の胸部に電極パッドと呼ばれるシールを、記載されている図のように胸部に直接貼り付けます(右胸と左脇腹、シールで心臓を挟み込むイメージ)。
- 3 自動的にAEDが解析を開始します。「離れて下さい。心電図の解析中です」という音声アナウンスで操作者に伝えます。
- 4 除細動が必要な場合には「ショックが必要です」などの音声で伝えてくれます。自分で会った周囲の人が傷病者に触れない事をきちんと確認し、音声に従ってショックボタンを押します。
- 5 電気ショック後は速やかに胸骨圧迫を再開します。AEDの指示に従って心肺蘇生対応とAEDの操作手順を約2分おきに繰り返します。

・AEDのパッドは救命隊到着まで貼ったままにしておきます。AEDの電源も入れたままにしておきます。  
・AEDの解析で「ショックが不要です」などの指示が出た場合は、速やかに胸骨圧迫を再開します。ショック不要はあくまでショックの必要性についてのみ言及したものであり、傷病者が回復しているかどうかを示すものではありません。したがって、傷病者に反応がない場合は必ず速やかに胸骨圧迫を再開しなければなりません。

## 心臓マッサージのおはなし

麻酔科だより <麻酔科医師 多田 雅博>

### 胸骨圧迫 心臓マッサージの仕方

#### 実施手順



胸部を圧迫することで心臓のポンプとしての機能を肩代わりします。効果的な胸骨圧迫が極めて重要で、それにより脳へ血液を送り出すことができます。

できるだけ硬く平らな面の上を行います。

胸部の正中の縦の骨(胸骨)の下半分(胸部全体の真ん中が目安)を真っ直ぐ真下に押します(圧迫)。片方の手のひらの基部(手首に近い部分)にもう片方の手を重ねて組み、肘を伸ばして垂直に胸骨を圧迫します。

ポイント 強く! 早く! 絶え間無く! 圧迫の合間はしっかり戻す! の4点です。

強く: 圧迫の深さは、5cm以上6cmを超えない(成人の場合)。

速く: 1分間に100～120回圧迫。

絶え間なく: 胸骨圧迫中断時間は最小限(10秒以内)に。

圧迫の合間はしっかり戻す: 圧迫した胸部を元の形態になるまで戻す。

必ず疲労して十分な胸骨圧迫ができなくなるため、救助者は周囲に協力者がいれば1～2分ごとを目安に交代すべきです。疲れる前に交代することが、効果的な胸骨圧迫を継続するポイントです。

